

離島巡回診療同行実習を終えて（中之島）

池田幹人

青々とした広葉樹林に覆われた島。これがフェリーから見た中之島の第一印象でした。それは、想像していた熱帯樹林が鬱蒼と生い茂る南の島とは全く違ったものでした。島に着きました。診療が始まるまで少し時間があつたので、旅館の近くを散歩してみることにしました。すると、ちらほらとガジュマルやバナナの木が目に入ります。建物は台風から守るためみんな低くなっています。そこは紛れも無く南の島でした。

今回の診療団は、平成23年11月25～27日の3日間の日程で、大学病院の先生3人と県歯科医師会の衛生士2人、職員2人、学生が自分を含めて2人という構成でした。

診療に先立って準備が始まりました。本来はこじか号と移動式ユニットの二台で診療するのですが、いつも移動式ユニットを設置するコミュニティーセンターがイベントのため今回は使用できませんでした。急遽ユニットが一台で診療することとなりました。

診療が始まりました。島内放送を聞きつけて、患者さんが一人、また一人とやってきます。さっそく問診をとりました。主訴や注意すべき項目を先生とあらかじめ打ち合わせ、患者を導入します。そこまでは大学病院と一緒です。しかし、ここから先は違いました。治療のボリュームが大きいのです。何箇所もいっぺんに治療します。通常なら何回かに分ける治療もまとめて行います。なぜならば、次の治療は何ヶ月後の離島巡回診療になってしまうからです。今日で治療を完結させてしまおうとバリバリ治療を進める先生方の姿を目の当たりにして、大学病院とはまた違ったエネルギーを感じました。自分もCR修復や乳歯冠装着などの齶蝕治療のアシストや、義歯調整や修理を行うなど大忙しでした。

診療を終え、今回の宿舎である大喜旅館で夕食をとりました。大喜旅館の食事は美味しくボリュームもたっぷりでした。一段落した所で、みんなで温泉に入りに行きました。中之島の温泉は硫黄泉で匂いがかなり強いですが、それがまたなんとも言えず心地良かったです。乳白色の温泉にしばらく浸かっていると、一日の疲れがスーッと引いていく気がしました。

離島巡回診療同行実習は二泊三日と非常に短いものでした。しかし、島の人々にとって、離島巡回診療が重要なものであることが実感できたと思います。先生がふと言った一言が心に残ります。「島の人たちは我慢強いよね。」例えば、島の人たちは義歯の調子が悪くなくても、すぐに調整してもらえませんが、最寄りの歯医者には、片道六時間掛けて本土に行くか、奄美大島に行かないといけません。なので、少々合わない義歯でも我慢して使用しているのが現実です。こうした現状を少しでも改善するために離島巡回診療はあるのです。

帰りのフェリーが出航するとき、多くの島の人達が見送りに来てくれました。治療した島の人たちに、「ありがとう。」と言ってもらい、なんとも言えない充実感を味わいました。

この場所は、日常でついつい忘れてしまいがちなことをあらためて気づかせてくれます。
次は歯科医師としてここに帰って来ようと心に誓いました。



出発前の集合写真。みんな見送りありがとう！



最後にこじか号の前で記念撮影。



アシスト中です。

離島巡回歯科診療同行実習を終えて（中之島）

孫田哲郎

平成23年11月25～27日の3日間の日程で大学病院の先生3人、歯科衛生士さん2人、職員2人、学生2人というメンバーで中之島に行きました。

フェリーに乗ること8時間、中之島に26日午前7時に到着しました。11月も終わりに近いのに島の風はまだ秋風のような感じでした。到着してすぐに、宿泊する大喜旅館まで「こじか号」（鹿児島県歯科医師会の小型歯科診療用バス）に乗って行きました。こじか号の車中を見渡すと、これからここで行われる診療を想像して緊張と期待が膨らみました。大喜旅館に着き、朝食を食べ、荷降ろしや着替えを済ませていると島内放送で診療時間と場所が流れました。

午前9時ごろ、診療所となるコミュニティーセンターに着くと、早速チーム全員で準備を行いました。コミュニティーセンターの周りにはちらほら子供たちが見え、遊びに来たのかなと思って見ていると、全員患者さんでした。診療開始時間と同時に患者さんが来て驚きました。次々と患者さんが訪れ、診療時間内では間に合わないほどでした。通常は数回に分けて行うような治療を、時間の関係上1回で行わなければならないのは患者さんも大変だと思うのですが、島の人々はとても我慢強く、また先生方もなるべくスピーディーにかつ確実な治療を行っていくのには感動するばかりでした。先生の監督のもとで義歯修理を行っている時、島の子供が話しかけてきました。こういった人とのオープンな触れ合いも離島実習ならではの、すごく新鮮な体験でした。義歯の修理を自らの手でやったことに充実感を感じました。そして、人の助けとなれる歯科医師という職業の魅力を再認識することが出来ました。

診療では、僕は問診の手伝いや義歯の修理、CR充填のアシスト、患者さんの導入などを行い、息つく暇もありませんでした。先生方は診療時間を超過しても、一切の妥協を許さない姿勢で診療に取り組んでおられるのがヒシヒシと伝わってきて、歯科医師のあるべき姿を見たように思います。そんな熱意あふれる診療に微力ながら参加できた自分は幸せだと思います。

初日は本当に大忙しで、フラフラになって大喜旅館に戻りました。夕食を終え、先生方とともに近くの温泉に出かけました。そこは硫黄泉で、疲れた体をお湯に浸すと格別に気持ち良かったです。普段は話すような機会があまりない先生方から、大学内のことや、将来の進路のこと、先生方の知らなかった一面などいろんな話を聞かせていただき、これもまた貴重な経験でした。

最終日の診療は午前中だけでしたが、無事にすべての治療が終わり、先生方の治療計画は素晴らしいと思いました。移動式ユニットやこじか号の片づけを行っている時、本当に充実した2日間が思い起こされました。片づけを終えフェリー乗り場まで行くと島民の方が見送りに来てくださっていて、とても感激しました。

今回の離島巡回歯科診療への同行は、歯科医師の必要性や歯科医師となるための心構えなど、短い期間ではありましたが、そういったものをリアルに肌で感じる事ができたことが僕のこの離島実習での収穫でした。この経験を生涯大事にして、歯科医師として邁進して行きたいと思います。



問診や診療の補助を行った診療中の風景



遅くまでの診療、お疲れ様でした



診療後はこの温泉で癒されました！